

ダイバーシティ・ミニアンケート結果報告 — 新潟大学におけるDE&I —

実施期間：令和5年3月9日～令和5年3月31日 回答数：419（学生：105、教職員：314）

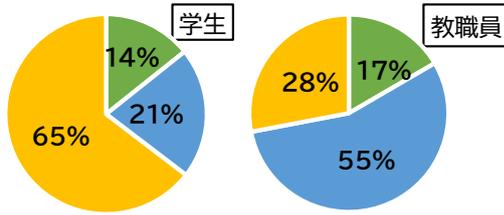


➤ ダイバーシティ推進宣言があったことを知っているのは、教職員では7割以上！
しかし、学生では65%が宣言があったことを知らないと回答。

(1) あなたは「新潟大学におけるダイバーシティ推進宣言」についてどのくらい知っていますか？

回答者の属性

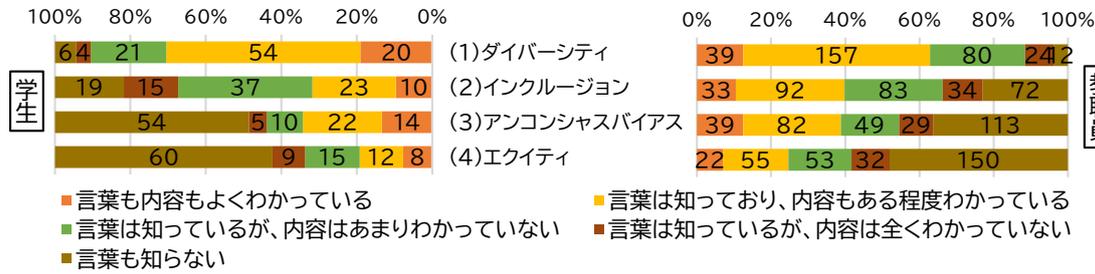
- 宣言があったことやその内容についてよく知っている
- 宣言があったことは知っているが、内容はよく知らない
- 宣言があったことも、内容も知らなかった



本学がダイバーシティ推進宣言を策定したのは令和2年3月です。その後、令和4年9月に改訂しました。
[新潟大学Website > 運営・将来構想 > 宣言](#)
学生の皆さんにも知ってもらえるよう、一層の周知を図っていきます。

➤ 学生、教職員共に7割近くが「ダイバーシティ」について内容まで理解しているが、「インクルージョン」「アンコンシャスバイアス」「エクイティ」を理解しているのは2～4割程度。

(2) あなたは以下の(1)～(4)の言葉についてどのくらい知っていますか？



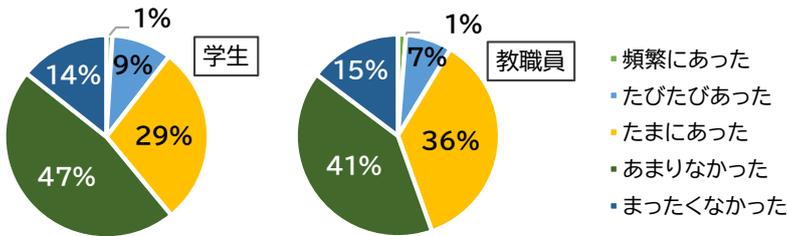
「エクイティ（公平性）」は、不平等の前提に立って公正なスタートラインを保障しようという考え方で、本学の宣言には令和4年度に付け加わりました。

自由記述欄では「カタカナ語」のわかりにくさを指摘する声も複数いただきました。わかりやすい表現でダイバーシティを伝えるよう工夫していきます。

➤ 学内でダイバーシティが進んだと感じる機会は「あまりなかった」の回答が最も多く4～5割。しかし、「たまに」～「頻繁に」あったと感じた人も、学生・教職員ともに4割程度いる。

(3) この1年の間に、学内で「ダイバーシティが進んだ」と感じる機会(※)はどのくらいありましたか？

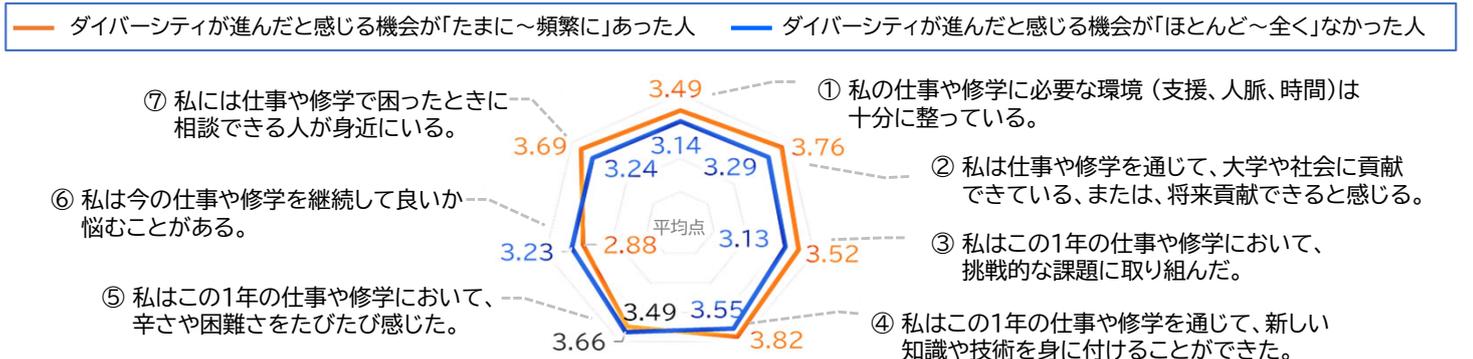
※ 多様な構成員の増加、ワーク・ライフ・バランスや性の多様性への配慮、アクセシビリティの改善、ポジティブ・アクションなど



本学のダイバーシティ推進度を尋ねた設問でも、「1年前とほとんど変わらない（進捗度0～20%）」が最も多く5割程度の方がそう回答しました。一人でも多くの方にダイバーシティの推進を実感していただけるよう「よく見て、よく聞いて、よく話す」センターでありたいと思います。

➤ ダイバーシティが進んだと感じる機会が「たまに」～「頻繁に」あったと感じた人は、そうでない人に比べ、仕事や修学に対して有意にポジティブな印象を持っていることが判明。

(4) あなたは本学で仕事や修学をする上で、①～⑦についてどの程度感じていますか。 ※ とてもそう思う(5点)～全くそう思わない(1点)と配点



※ ⑤を除き有意差あり(信頼区間95%)

因果関係には言及できないものの、ダイバーシティの推進がいわゆる「やりがい」に関係していることが示唆されました。今後もより一層ダイバーシティを推進し、活力ある新潟大学の実現を目指します。

ご協力ありがとうございました。